行政視察等 報告書

令和元年８月５日

長浜市議会議長　松　本　長　治　様

長浜市議会議員　　西邑　定幸　[redacted]

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　令和元年度　会派「政友会」行政視察研修
２．視察期間　　令和元年７月22日(月)～７月24日(水)
３．視察場所及び目的
　①青森県上北郡六ヶ所村　　「六ヶ所村核燃料サイクル施設の視察研修」
　②青森県十和田湖観光交流センター　「観光振興の取組と現状」について
　③岩手県北上市　　「地域公共交通の取組」について
　④宮城県大崎市　　「地方自治組織活性化事業交付金と市民協働の取組」について
４．調査内容・感想等　　※　長浜市　人口120千人　面積681平方キロメートル

【１】六ケ所村　核燃料サイクル施設視察研修

ウラン濃縮工場、MOX燃料工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、再処理工場等、原子燃料の一連のサイクル施設の視察研修を行なった。

〈　感想　〉

資源小国である日本は、現時点原発への依存は避けて通ることはできない状況において、納得できる頼もしい誇れる施設であると感じた。

【２】青森県十和田湖における観光振興の取組と現状について視察

十和田湖観光交流センター「ぷらっと」で、現在の観光状況を研修した。

以前は年間200万人の観光客が訪れていたが、今や年間5～6万人とのことで、

長　浜　市　議　会

訪問当日もかっての賑わいはなく、ホテル・旅館・民宿も多くが閉鎖されており、観光船の会社も２社あったのが１社となってしまったとのこと。

〈 感想 〉

小生が高校生であった約50年前に訪れた当時の面影が無くなっていて、栄枯盛衰の無常を感じた。非常にポテンシャルのある観光資源を持ちながら何故なのか？疑問を感じた。観光施策の取組が不十分であると感じた。

【３】岩手県　北上市　　人口　96千人　　面積　438㎢

最近は、東芝メモリーの工場進出があり工業生産高も増え、従来の農業と工業とのバランスが取れ、人口増も期待され活力のある都市と変容してきている。

通年議会：H28年度～　　タブレット導入：H30年２月～

◆「地域公共交通の取組」について

国の法律に基づき、平成29年～32年間の公共交通網形成計画を策定し、アクションプログラムで５つの戦略を実施している。

コンパクトシティープラスネットワークの概念を踏襲し、幹線交通はＪＲと路線バス、拠点間交通は路線バスとコミュニティーバス、地域拠点と各世帯間は乗り合いタクシーを基本としている。特にコミュニティーバスは、毎日運行ではなく週2～3日運行とし１日４便運行としている。運賃も１区間100円とし安価である。

〈 感想 〉

長浜市でも、住民の声を反映した、公共交通網計画を策定しているが、

北上市では、より住民の意見を聞き、きめの細かいアクションプログラムとなっているように感じた。持続可能な地域の利便性を考えた公共交通として様々なアイデアを出し、更なる充実が必要であると感じた。

【4】宮城県　大崎市　　人口　130千人　　面積　797㎢

◆「地方自治組織活性化事業交付金と市民協働の取組」について

長浜市と同様に合併を境に、行政だけでは対応できない課題が増え、新たな行政と地域との関係構築が必要となってきた。

現在、7つのまちづくり協議会が設置され、地域の自治やまちづくりが進められている。「共にはぐくむ、市民が主役の協働のまちづくり」を施策の柱とし、組織横断的な体制を取っている。

自治組織への財政支援として、自治組織活性事業交付金制度を導入して支援している。

〈　感想　〉

担当者に言わせると、長浜市の取り組みを研修し、モデルとして進めているとのことであったが、大崎市では、市民との話し合いが出発点であるとの認識が共有されており、話し合いの中で問題・課題を洗い出し、市民協働の環境づくりがされていると感じた。長浜市でも謙虚な取組が必要であると感じた。　以上